公開セミナー「さらば大学」報告

高 橋 源一郎

2018 年度公開セミナーは「さらば大学」というテーマを掲げ、11 月 13 日から 12 月 18 日にかけて、ゲストをひとり招き、研究所所長のわたしと対話をする形式で、毎週火曜日に行われた。全 6 回のうち、第 3 回はゲストの加藤典洋氏が体調不良のため中止になり、また最終回となった 6 回目は、わたしの「最終講義」に代えさせていただいた。

この公開セミナーのテーマを「さらば大学」にした理由については、公開前に研究所のホームページに掲載した文章（後掲 **公開セミナー「さらば大学」に向けて**）に詳述しているが、十四年在籍した大学を定年退職するにあたって、もっともふさわしいものだ、と考えたからである。

わたし自身が個人的に「さらば大学」の時期を迎えただけではなく、大学そのものが、世界から「さらば」といわれかねない時代になりつつあるのではないか。わたしは、大学に奉職していた十四年、そんなことを感じつづけてきたが、その間、何度も協力してきた「公開セミナー」を締めくくるのに、これ以上ふさわしいテーマはないように思えたのである。

本学部の、この公開セミナーは、大切に育てられ、維持されてきたプロジェクトであった。もちろん、どんな大学でも、この種の公開セミナーは開催されている。だが、本学部の公開セミナーの関係者は、地域住民の知的な好奇心を満たすこともまた、大学にとって責務であると考え、長年、多くの時間をかけて準備をし、我が国の「知」を代表する人びとをこの戸塚キャンパスに招いてきた。その成果の多くは、単行本になって残っている。大学は、これからも変化を続けるであろうが、研究と教育だけではなく、このような誠実な啓蒙活動もまた、大学が意味ある存在として社会の中で生きていくために必須のものであるように思う。その意味で、難しいテーマにも関わらず、参加していただいたゲストの方々に深い感謝の気持ちを捧げたい。

お招きしたゲストはすべて、現役の、もしくはかつて大学に深く関わり、またただ関わっただけではなく、大学という場所について深く考えた方たちであった。

田中優子氏は「江戸」の研究者として著名であるが、いまは「法政大学総長」として、大学における女性の地位を考えるとき、象徴的な存在であるともいえるだろう。当学部が、この公開セミナーを中心にして社会への直接的関わりを模索している中、法政大学で開催されている、社会と各研究者との関わりを中心にした講座のあり方は、未来の大学が取り組むべき課題であると感じた。

思想家の内田樹氏は、神戸女学院大学を定年退職後、広汎な活動をされているが、その中心には、内田氏が主宰する合気道道場「凱風館」がある。そこは、単に、合気道の道場であることを越え、この社会に拮抗する小さなコミュニティーとしての意味を持っている。内田氏との対話でも、わたしたちは、未来の大学の萌芽を受けとることができたと思う。

原武史氏は、かつて本学の教員であったし、何より、この公開セミナーを大きく育てた最大の

貢献者でもあった。原氏からは、公開セミナーの意義と、現在勤めている放送大学という特殊な大学のあり方についてもお聞きすることができた。

最近、東京大学入学式でのスピーチで大きな話題を集めた上野千鶴子氏とは、学問、そして大学の存在意義についてお話することができた。タイムリーであると共に、とりわけ、女性・女子学生諸君にとって（ほんとうは男性・男子学生にとってものはずだが）刺激的な話題が多かったように思う。

また、既に書いたように、最終回を、個人的な理由で、最終講義にさせていただいたことを感謝している。

心残りは、ゲストの予定だった加藤典洋さんが欠席されたことだった。その後、加藤さんは療養生活に入られ、本年五月に亡くなられた。加藤さんは、わたしの前任者として、わたしをこの大学に誘ってくださった方でもあった。ただ痛恨の極みである。

公開セミナー「さらば大学」へ向けて

大学を取り囲む環境は日々過酷なものになっています。少子化による学生数の急減、社会環境の激変による社会から大学への要請の変化あるいは社会からの圧力の強化、そして、大学における研究や教育そのものの意味の問い直し。どれも解決の目処さえつかぬ難問です。かつて「象牙の塔」といわれた大学は、もはや、社会から孤立してはいられなくなりました。いや、もしかしたら、もともと大学以上に社会の風圧に晒される存在はないのかもしれません。では、どうすればいいのか。そんなことを考える暇もないほど、次々に新しい問題が大学を襲っています。個人的ではありますが、わたしは 2018 年度をもって大学教員を退職（定年）します。研究所所長として、大学教員としての最後の仕事に、この問題を取り上げたいと思いました。「さらば大学」は、わたし自身が大学へ贈ることばになりますが、同時に、苦しみ悩む現在の大学が不死鳥のように蘇ることを期待してのことばでもあります。あえていうまでもなく、大学について考えることは、この世界について考えることでもあるはずです。この問題について、深く考え悩んだであろう大学関係者をお招きし、徹底的に議論してゆきたいと思っています。みなさまのご参加を期待しています。

国際学部付属研究所所長　高橋 源一郎

	開催日	ゲスト	対談者
第 1 回	11/13	田中 優子 （法政大学総長）	高橋 源一郎 （本学国際学部教授）
第 2 回	11/20	内田 樹 （思想家）	高橋 源一郎 （本学国際学部教授）
中止	11/27	加藤 典洋 （文芸評論家）	高橋 源一郎 （本学国際学部教授）
第 4 回	12/4	原 武史 （放送大学教授）	高橋 源一郎 （本学国際学部教授）
第 5 回	12/11	上野 千鶴子 （社会学者）	高橋 源一郎 （本学国際学部教授）
第 6 回	12/18	高橋 源一郎 （作家・明治学院大学教授）	最終講義

（開催場所：明治学院大学 横浜キャンパス）